

平成29年度(2017年度)

管理事業名	南千里庁舎管理事業				総合計画の体系	第6章 安全で魅力的なまちづくり 第2節 暮らしや都市活動を支える基盤づくり
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 8	土木費	(項) 1	土木管理費	(目) 1 土木総務費
部局名	土木部	予算執行所属	総務交通室			
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
南千里庁舎管理事業						
事業の目的と概要 吹田市南千里庁舎の維持管理のため、施設及び設備の保守点検業務の委託や各種修繕等の維持管理業務を行います。						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	成果指標の定義
庁舎使用率	%	100	100	100	吹田市南千里庁舎の延床面積に対して、庁舎として使用している割合
成果の説明	土木部内各室の事務室及び倉庫として有効に活用しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	856	854	877	22
経常収入 小計(a)	856	854	877	22
給与関係費	6,917	7,138	7,150	12
物件費	18,017	18,063	18,594	531
維持補修費	943	432	676	244
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	3	18	15
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	9,013	9,013	9,191	178
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	608	618	627	9
退職手当引当金繰入額	137	797	466	△331
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	35,635	36,064	36,722	658
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△34,778	△35,210	△35,845	△636
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	4,105	4,105
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	4,105	4,105
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	△4,105	△4,105
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△34,778	△35,210	△39,950	△4,740
一般財源充当額	26,388	26,046	35,722	9,676
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△8,391	△9,164	△4,228	4,936

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	需用費の増 336千円 役務費の減 915千円(不動産鑑定手数料の皆減 758千円ほか) 委託料の増 1,110千円
維持補修費	修繕料の増 244千円
固定資産除売却損	保育園用地提供による建築物の撤去による増 4,105千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	856	854	877	22
行政サービス活動支出	27,244	26,900	27,730	829
行政サービス活動収支差額	△26,388	△26,046	△26,853	△807
投資活動収入	-	-	80,000	80,000
投資活動支出	-	-	88,869	88,869
投資活動収支差額	-	-	△8,869	△8,869
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△26,388	△26,046	△35,722	△9,676
一般財源充当額	26,388	26,046	35,722	9,676
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	投資活動収入 公共施設等整備基金繰入金 80,000千円 投資活動支出 庁舎等複合施設建設に係る土地購入 88,869千円
--------------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
建物1㎡あたりのコスト	平成27年度	3,537 円	10,075 円	主に物件費と維持補修費の増加に伴い、単位あたりコストが増加しています。
	平成28年度	3,537 円	10,196 円	
	平成29年度	3,480 円	10,552 円	
	平成27年度		円	
	平成28年度		円	
	平成29年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成28年度末 A	平成29年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	618	627	9
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	618	627	9
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
有形固定資産	715,147	621,135	△94,012	固定負債	6,989	6,782	△207
土地	591,966	498,947	△93,018	地方債	-	-	-
建物・工作物	123,181	122,188	△993	長期借入金	-	-	-
リース資産	-	-	-	退職手当引当金	6,989	6,782	△207
建設仮勘定	-	-	-	リース債務	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
固定資産	-	-	-	負債の部合計	7,607	7,408	△199
有形固定資産	-	-	-	純資産	707,540	613,727	△93,813
土地	-	-	-				
建物・工作物	-	-	-				
建設仮勘定	-	-	-				
重要物品	-	-	-				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	715,147	621,135	△94,012	負債及び純資産の部合計	715,147	621,135	△94,012

Ⅲ 財務構造分析

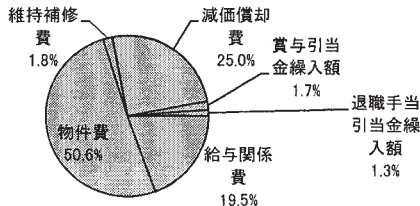
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数	
1人	8,243千円				8,243
給与関係費等					
内、時間外勤務手当	0千円				

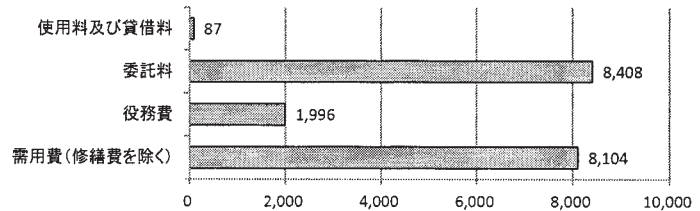
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
土地	吹田市南千里庁舎敷地 保育園用地提供による分筆 181,887千円の減 庁舎等複合施設建設に係る土地購入 88,869千円の増

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市南千里庁舎
取得年月日	昭和56年(1981年)4月1日
建物・工作物の取得価額	518,312千円
建物・工作物の減価償却累計額	396,124千円
利用料金収入	-千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成27年度	平成28年度 A	平成29年度 B	
施設維持補修費比率	0.2	0.1	0.1	0.0
施設老朽化比率	74.6	76.4	76.4	0.0
受益者負担比率	-	-	-	-
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	96.9	96.8	30.6	△66.2
経常費用対公共資産比率	6.8	6.9	7.1	0.2

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、物件費18,594千円(50.6%)、減価償却費9,191千円(25.0%)、給与関係費7,150千円(19.5%)、維持補修費676千円(1.8%)等で経常費用全体の96.9%となっており、昨年度とほぼ同じ構成となっています。  
ただ、市保有施設全体の老朽化比率が57.0%であるのに対して、吹田市南千里庁舎では、76.4%と高い比率となっていますが、施設維持補修費比率は0.1%と低い比率となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

吹田市南千里庁舎は、昭和56年(1981年)の竣工から37年が経過していますが、その間、大規模修繕や設備機器の更新を行ったことがなく、施設老朽化比率も76.4%と市保有施設全体の同比率57.0%を大きく上回っています。施設の老朽化に伴う経年劣化により、空調設備や排水管等の修繕費が増加していますが、厳しい財政状況のもと十分な修繕費が確保できず、必要最低限の修繕しか行っておりません。今後、施設の老朽化が進むにつれて、必要最低限の修繕では建物の維持管理が困難な状況に陥ることが想定されます。  
また、吹田市南千里庁舎は、災害発生時には道路復旧等の拠点となる重要な施設であることや、施設のバリアフリー化への対応も遅れていることなどから、今後、施設の適切な維持管理や機能向上のための改修工事等の必要性を含め、関係部局との協議が必要になると考えられます。